

野活アウトドアキッズ②

2026

活動報告



広島市青少年野外活動センター・こども村

2026/6/30作成

実施概要

【目的】

小学生を対象に、豊かな自然の中で、異学校・異学年の仲間たちや大学生ボランティアスタッフとの出会いや関わり合いを通じて、新たな価値の発見や心の成長を目指す事業です。

また、青少年指導者の育成の場として、こどもたちへの声掛けや関わり方を学ぶための教育実践の機会を提供することも目的としています。

【定員・応募者数】

小学生 15 人・応募者 47 人

【参加者・ボランティアスタッフ】

小学生 13 人・ボランティアスタッフ 6 人

【告知の方法】

・青少年野外活動センター・こども村 WEB サイトへチラシの掲載

【ボランティア募集案内】

ボランティア募集中!!
自然の中で自分を高めよう!
参加費 集めません
午前中は実践
午後は研修
第2回 野活 アウトドアキッズ

どんなことをするの？

午前はこどもたちと一緒にペットボトルロケットの製作や試射を行います。トライアンドエラーの繰り返しで、たまねぎの収穫体験をします。
午後からは、キャンプファイアで活用できるレクリエーションを体験しながら学びます。



野外活動センターって どんなところ？

青少年の自然の中での活動を支援する施設です。自然・人・地域とのふれあいを通じて、青年や子どもたちの「社会性」や「人を思いやる心」を育みます。



公益財団法人広島市文化財団

広島市青少年野外活動センター・こども村

〒731-1171 広島県広島市安佐北区安佐町小内5135 TEL082-835-1444
<http://www.cf.city.hiroshima.jp/yasai-sci/>

広島市 野外教育 検索



【参加者募集案内】

参加者募集中!!
ROCKETを飛ばそう!
参加費 100円
第2回 野活 アウトドアキッズ

どんなことをするの？

ペットボトルを加工してロケットを作ります。遠くに飛ばすにはどうしたらいいか、こどもたちが考えながら試行錯誤する時間を設けています。人生にとって大切なトライアンドエラーの考え方をレクチャーします！



野外活動センターって どんなところ？

青少年の自然の中での活動を支援する施設です。自然・人・地域とのふれあいを通じて、青年や子どもたちの「社会性」や「人を思いやる心」を育みます。



公益財団法人広島市文化財団

広島市青少年野外活動センター・こども村

〒731-1171 広島県広島市安佐北区安佐町小内5135 TEL082-835-1444
<http://www.cf.city.hiroshima.jp/yasai-sci/>

広島市 野外教育 検索



野外活動センターでの体験活動

6月27日(土) 予定
9:30 受付
9:40 はじめのつどい・アイスブレイク
10:00 ペットボトルロケットの製作
10:30 ペットボトルロケットの試験飛行
12:00 おわりのつどい
12:10 たまねぎとじゃがいもの収穫(希望者のみ)

自然体験活動と異年齢交流を通じて、青少年の協調性や自立性を育むことを目的として実施します。そのためには、参加者の主体性が何より重要となってきます。お子様に企画の主旨をお伝えいただいたうえで、参加申込をいただければ幸いです。希望者を対象に、親子での農業体験を予定しています。

対象・定員 小学生・15人

申込者多数の場合は抽選となります。参加可否は申し込み締め切りの日にメールアドレスに連絡します。

募集期間 令和8年4月1日～令和8年6月1日

申込方法 右の二次元コードから申し込むことができます



開催までの流れ

2026/3/24 参加者の募集開始
2026/4/1 登録ボランティアスタッフへボランティアの募集を案内
2026/6/1 ボランティアスタッフの申込み締め切り
2026/6/7 参加者の申込み締め切り
2026/6/27 実施日

当日のスケジュール

6月27日（土）		参加者	保護者	ボランティア
9:10	スタッフミーティング			●
10:00	はじめのつどい	●	●	●
10:15	ペットボトルロケット製作	●		●
10:45	ペットボトルロケット試射	●		●
12:00	たまねぎ・じゃがいもの収穫体験	●	●	●
14:00	井桁の組み方とキャンプファイアーの進め方			●
16:00	ふりかえり			●
16:30	解散			

6月27日（土）

■スタッフミーティング 担当：シュガー

（内容）

青少年野外活動センターでのボランティア活動に参加するメンバーの交流を促すための簡単な仲間作りゲームをしました。



■ペットボトルロケットの製作 担当：シュガー

（内容）

ペットボトルをハサミで切ったり、テープで巻いたりして1人1台ペットボトルロケットを作りました。ゴム栓に空気針を指したり、テープを曲げながら貼ったり、自分で製作が難しいところは、ボランティアスタッフと一緒に取り組みました。



■ペットボトルロケット試射 担当：いっしー

(内容)

こども広場で、自分で作ったペットボトルロケットの試射を行いました。遠くまでペットボトルロケットを飛ばすためにはどうしたらいいのか、ロケットの中の水の量を変えたり、ロケットの先をテープでぐるぐる巻きにして重くしてみたり、発射台を調整して発射角度を変えてみたり、様々な工夫が見られました。こどもたちで一番遠くまで飛ばした子の記録は32メートルほどでした。ベテランの職員が製作・発射したロケットは、こども広場を突き抜け、ディスクゴルフコースの木々にぶつかり落下しました。推定80メートルほどの飛距離でした。



■たまねぎ・じゃがいもの収穫体験 担当：シュガー

(内容)

事業の終了後に、親子で一緒に体験できる農業体験をしました。収穫物は「たまねぎ」と「じゃがいも」です。任意参加の活動でしたが、全ての家族が参加しました。



■井桁の組み方とキャンプファイアーの進め方 講師：奥田栄彦氏

(内容)

講義と実技を通じてキャンプファイアーの進め方について学びました。井桁の組み方については、実際に参加者が井桁をくみ上げながら組み方を確認しました。また、井桁を組む際のポイントや留意事項についても確認しました。キャンプファイアーの中で行うレクリエーションについて体験しながら学びました。



TRY&ERROR&LEARN ための取り組みを紹介します

■少人数で実施、個別で対応

自分のペースで自分の考えたように行動できなければ、思ったように試行錯誤をすることはできません。できるかぎり、こどもたちが今やりたいことを尊重し、挑戦を促してあげたいと思います。一方で、ひとりひとりのこどもたちから目を離すわけにはいきません。

そのため、野活アウトドアキッズ②では、参加者を少人数で実施し、ボランティアや職員で個別に対応できるようにプログラムを企画しました。

■何度でも飛ばせる！待ち時間は2分程度

大きな広場で発射台を4台使用して試射を行いました。待ち時間がほとんどなく何度でも飛ばせる環境だったため、思う存分ペットボトルロケットを打ち上げることができました。低学年の児童については「飛ばすのが楽しい！」ので試行錯誤とまではいきませんでした。中学年～高学年の児童については、様々な工夫をして飛距離を伸ばせるように取り組んでいました。また、ロケットの試射の時間の後半は、飛距離を伸ばすことから、目標物を狙うことに、競技の目的を変えマンネリ化しないようにしました。

こどもの自然体験を促進するための取り組み

■幼児向けの散策コースの提案

参加者の活動が終わるまでの待ち時間も、弟や妹にとっては貴重な時間です。部屋で待機するだけではもったいないので、魚釣りセットやカプラを用意したほか、施設内の散策コースの提案を行いました。

■保護者は送迎だけじゃない、自分にとっても豊かな時間を作ってほしい

参加者の活動が終わるまでの待ち時間は、保護者にとっても貴重な時間です。保護者の役割が、こどもたちを体験場所への送迎だけではもったいない。今回は他の利用者が研修棟とこども広場周辺にいなかったため、施設内の散策を可としたほか、親子での野菜の収穫体験も行いました。夫婦でゆっくり自然の中を散策したり、こどもと一緒にじゃがいもを掘ったり、非日常的な時間となったのではないのでしょうか。「こどもも楽しく、自分も楽しく」子育てをする機会を作れたらと思っています。

